

【報告】

・【CIEC 第 121 回研究会報告書】

テーマ：万人に開く教育にむけて

ー北米のオープンエデュケーションリソースと英国のオープンユニバーシティの現状と課題ー

開催日：2019年11月24日（日）14：00～16：00

会場：大学生協杉並会館

共催：オープンエデュケーション部会

・【2020PCカンファレンス開催報告】

テーマ：産学共同で切り開くこれからの教育・学習

開催日：2020年8月18日（火）19日（水）20日（木）

開催場所：同志社大学 京田辺キャンパス（〒610-0394 京田辺市多々羅都谷 1-3）

公式サイト：<https://gakkai.univcoop.or.jp/pcc/2020/>

※新型コロナウイルス（COVID-19）拡大を防ぎ皆様の安全を考慮しオンライン開催に変更しました

・【CIEC 第 123 回研究会報告書】

テーマ：「コロナ禍における学びの継続」について

開催日：2020年11月22日（日）14：00～16：15

会場：Zoom オンライン会議室

【CIEC 第 121 回研究会】

【開催概要】

テーマ：万人に開く教育にむけて

ー北米のオープンエデュケーションリソースと英国のオープンユニバーシティの現状と課題ー

実施日時：2019年11月24日（日）14：00～16：00

開催場所：大学生協杉並会館

開催概要：

オープン・エデュケーション部会では、世話人を中心にここ数年をかけて北米を中心にニューヨーク公共図書館やカリフォルニア大学などの図書館やラーニングコモンズを継続的に視察している。そして去る9月には、カリフォルニア州立大学ドミンクスヒルズ校を訪問し、カリフォルニア州立大学23校間における図書館連携、オープンエデュケーションリソース（OER）の現状を視察してきた。さらに、パサデナシティカレッジ校では、カリフォルニアにおけるコミュニティカレッジの課題とその解決の方法の一つとしての図書館そしてOERの在り方を調査してきた。

今回の研究会では、まず吉田氏からオープン・エデュケーション部会の取り組みと北米の視察の報告、UCOMのFaustino Hernandez氏から北米の高等教育におけるデジタル教材等の最新情報、武沢氏からMERLOTとOERについて、伊藤氏からは中等教育の視点からの報告さらに澤口氏から英国におけるオープンユニバーシティの現状と課題を報告があった。

以上の報告を受けて、参加者とともに、高等教育や初等

中等教育における図書館、OERなどの在り方などを中心に議論し、万人に開かれるオープンな学びを実現するための教育環境の課題について考えた。

【タイムスケジュール】

14：00～14：10 開催挨拶

司会：吉田晴世氏（代表世話人：大阪教育大学）

14：10～14：30 武沢護氏（早稲田大学大学院/高等学院）

MELROTとOERについて（北米視察の報告から）

14：30～14：50 Faustino Hernandez氏（UCOM. inc）

CIEC 2020 USA Visits & Beyond

15：00～15：20 伊藤正徳氏（東京・聖徳学園中学高等学校長）

中等教育における図書館の役割とOERの可能性

15：20～15：40 澤口隆氏（東洋大学）

英国におけるオープンユニバーシティ滞在記

15：40～16：00 ディスカッション

16：00 閉会挨拶（司会）

参加人数 17名

【研究会の内容】

武沢護氏（早稲田大学大学院/高等学院）から

テーマ「MERLOTとOERについて（北米視察の報告から）」

CIECにおける北米視察の取り組みの状況、とりわけ

2019年9月に実施したカリフォルニアロサンゼルス近郊の視察についての報告があった。さらにオープン・エデュ

ケーション部会が取り組んでいる OER としての MERLOT への参加と、今後の教育における OER の重要性についての指摘があった。

Faustino Hernandez 氏 (UCOM. inc) から
テーマ「CIEC 2020 USA Visits & Beyond」

CIEC における北米視察の取り組みを踏まえて、今後の取り組みの視点とそのいくつかの内容の提案があった。具体的には北米の東海岸での取り組みでとりわけワシントン DC への訪問、EDUCASE へのコンタクトが提案された。

この EDUCASE とは米国の大学における ICT に関わる二つの組織 (EDUCOM, CAUSE) を、1998 年に統合してできた NPO で「ICT の活用を推進することにより高等教育を発展させる」ことを目的としたものである。現在、約 2,200 の大学・教育関係の組織が加盟し年次大会を開催している。



CIEC としてここへのアプローチも視野に活動していくことが提案された。

伊藤正徳氏 (東京・聖徳学園中学高等学校長) から
テーマ「中等教育における図書館の役割と OER の可能性」

聖徳学園は東京武蔵野にある男女共学の中学・高等学校である。数年前から ICT 教育に力を入れ、iPad の必携化、ラーニングコモンズなどの設備を整えた優れた ICT 環境をもっている。今回は CIEC 北米視察に同行した伊藤校長から、聖徳学園における各教科だけでなく、映像制作、海外交流などに関する積極的な活動の紹介があった。さらには現在、学校図書館の在り方をみなおし、司書教諭とともに学習活動への重点的な取り組みを企画しているとのことであった。聖徳学園の取り組みは CIEC の小中高部会の活動などにも非常に参考になる事例となるであろう。

澤口隆氏 (東洋大学) から
テーマ「英国におけるオープンユニバーシティ滞在記」

澤口氏が昨年 1 年間在外研究で滞在したオープンユニバーシティの紹介があった。オープンユニバーシティは 1969 年設立された英国の大学で、放送を教育の手段とすることが特徴で、わが国の放送大学に似ている。もともとは BBC などと協力してテレビ・ラジオの講座の視聴のほか、オープンエデュケーションリソース、MOOC' S などの通信教材による学習、カウンセラーやチューターによる面接指導・演習やスクリーニングが行われるとのことであった。北米の取り組みとは一味違う点で非常に興味深い報告であった。

以上、今回の研究会では北米のオープンエデュケーションリソースの取り組みだけでなく、イギリスにおけるオープン・エデュケーションの一つの形態としてのオープンユニバーシティでの取り組みの詳細を知ることができた。また、オープンエデュケーションリソースは高等教育での取り組みが中心に語られるが、これからは中等教育にお

いても重要な取り組みになってくる。ICT 環境の整備と学校図書館との連携という視点が聖徳学園の取り組みから一つの示唆が与えられた。最後に参加者からの積極的な質問もあり、今後のオープン・エデュケーション部会の方向性にも参考になる有意義な研究会となった。



(文責：オープン・エデュケーション部会 武沢護)

【2020PC カンファレンス開催報告】

1 開催概要

開催テーマ：産学共同で切り開くこれからの教育・学習
開催日時：2020 年 8 月 18 日 (火) 19 日 (水) 20 日 (木)
開催場所：同志社大学 京田辺キャンパス (〒610-0394 京田辺市多々羅都谷 1-3)
公式サイト：<https://gakkai.univcoop.or.jp/pcc/2020/>
※新型コロナウイルス (COVID-19) 拡大を防ぎ皆様の安全を考慮しオンライン開催に変更しました。

主 催：一般社団法人 CIEC (コンピュータ利用教育学会)
/ 全国大学生協同組合連合会
後 援：同志社大学、文部科学省、経済産業省近畿経済産業局、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京田辺市教育委員会、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、NHK 京都放送局、京都新聞社、大学コンソーシアム京都
参加費：一般：7,000 円/学生・院生：3,500 円※税込

2 参加者数 333 名

内訳：大学職員 120 名、小中高教職員 17 名、学生・院生 52 名、生協職員 106 名、その他 38 名

3 企画内容

■8 月 18 日 (火)

【プレカンファレンス】 時間 9:30-11:00

「VR に惑わされない「ひきこもり教育・学習を加速する」バーチャル空間の使い方」

VR 機器やスマートフォンまで、多様なデバイスから利用できるバーチャル SNS 「cluster (クラスター)」。リアル空間での接触に困難を抱える昨今、増えているのは「バーチャル勉強会」「バーチャル学会」といった学習や教育の場としての利用です。「VR」という単語にも手垢のついた現在「なんか先端的なイメージだけど、まだまだ使えないでしょ」そんな印象を覆すような事例をご紹介します。

【全体会・基調講演】 時間：12:00-12:10

開会挨拶：新関三希代 (PCC 実行委員長 同志社大学副学長・教育支援機構長)

開催校挨拶：植木朝子 (同志社大学学長)

主催者挨拶及び趣旨説明：若林靖永 (CIEC 会長理事 京

都大学)

司会：宿久洋（副実行委員長 同志社大学）

【基調講演】

今回の PC カンファレンスのテーマは、SDGs や AI などのように大きな未来変革が求められるなか、未来を担う人づくりのためにはこれまでにない産業界と大学等学校が協力共同して、新たな教育プログラムや教材、学習環境を開発・提供することが求められるという点に注目して、「産学共同で切り開くこれからの教育・学習」（仮題）とすることを予定しています。これに関連した基調講演を、データサイエンス教育とビジネススクールでの教育プログラムに関連して、お二方に講演いただく。

・基調講演 1：時間：12：10-13：00（40分）

「データサイエンス教育における産学共同研究」

河本薫（滋賀大学データサイエンス学部教授）

・基調講演 2：時間：13：00-13：50（40分）

「産学共同から生まれる新しい教育の挑戦とその課題」

若林靖永（京都大学経営管理大学院経営研究センター長・教授、CIEC 会長理事）

【シンポジウム 1】 時間：14：10-15：40

「産学共同による教育実践の課題とその解決法」

「産学共同で切り開くこれからの教育・学習」という 2020PCC のテーマをふまえ、これに関連した基調講演として、データサイエンス教育とビジネススクールでの教育プログラムに関連してお二人の先生に講演をいただいた。本シンポジウムでは、その講演を受けて、具体的に、産学共同による教育実践の課題を明確にし、それをどのように解決していくかを探るための討論の場をする。

パネリスト

河本薫（滋賀大学データサイエンス学部教授）

若林靖永（京都大学経営管理大学院経営研究センター長・教授、CIEC 会長理事）

指定討論者：宿久洋（同志社大学）

司会：中村泰之（名古屋大学情報学研究科准教授、CIEC 副会長理事）

【シンポジウム 2】 時間：16：00-17：30

検証「新型コロナ」休校！ そのとき学校はどう動いたか - 新たな学びの場の構築と充実 -

今春、新型ウイルスが日本中を襲い、とりわけ教育の現場では休校、新学期開始の繰り下げなどの対策に迫られた。働き方ではテレワークが推奨されるなか、学習の機会の確保という観点から学校教育においても従来の学習の場の代替というだけでなく、学び方の新たな地平を開く必要に迫られた。このセミナーでは、今春、各学校がどのように動いたかを検証し、これからのオンライン学習・教材などの構築と充実について議論したい。

パネリスト

齋藤勝（帝京平成大学）

平田義隆（京都女子高等学校）

吉田賢史（早稲田大学高等学院）

司会：武沢護（早稲田大学大学院・高等学院）

【イブニングセッション】 時間 18：00-20：00

(1)「Security Game Night〜ゲームで体感、標的型攻撃」

主催者 山田夕子（社会医療法人愛仁会 公認セキュリティ監査人補）

(2)「学習行動が明らかになるデジタル教科書体験」

主催者：田中雅章（大橋学園 ユマニテック短期大学）

共催者：名和輝明（京セラコミュニケーションシステム株式会社 コンサルティング事業本部）

(3)「Surface を活用した学び体験報告」

主催者：高祖健太（大学生協中四国事業連合 勉学研究支援事業グループ）

共催者：瀬尾芽実（日本マイクロソフト株式会社）

(4)「DECS プラットフォームを活かした PC 講座電子教材を試用してみよう」

主催者：北村士朗（熊本大学）

共済者：全国大学生協連

(5)「ゼミ担当教員のみなさん、春学期のゼミどうやって乗り切りましたか？」

主催者：古賀暁彦（産業能率大学 情報マネジメント学部）

(6)「情報活用能力の向上のための学生への人的支援のありかた〜2020 年度における IT サポートデスクの活動〜」

主催者：大学 ICT 推進協議会ユーザーコミュニケーション部会、尾崎拓郎（大阪教育大学）

共催者：森村吉貴（京都大学）、近堂徹（広島大学）、森本尚之（三重大学）

■8月19日（水）

【分科会】87本のオンライン発表が行われた。

応募受付時点では、現地開催予定で口頭発表とポスター発表形式で募集をして93本の応募がありましたが、新型コロナウイルス感染所拡大のため、5月21日にオンライン発表に変更となった。

8月19日（水）9：00-11：25/ 8月19日（水）14：00-16：25/ 8月20日（木）9：00-11：25

※時間割

<https://gakkai.univcoop.or.jp/pcc/2020/pdf/timetable-all.pdf>

<2020PC カンファレンス論文賞>

・最優秀論文賞

「対話型大規模講義のオンライン - 受講生/教員間インタラクションに関する考察 -」

長岡 健（法政大学）

・優秀論文賞

「ビデオ会議システムの VR 空間への拡張による、ライブ感を高めたオンライン授業配信」

矢野 浩二郎（大阪工業大学）

・学生論文賞

「児童虐待のない未来のために - 高校生意識調査の分析に基づいた啓発活動とその検証 -」

田中 海舟 (長崎県立長崎南高等学校)

川添 綾 (長崎県立長崎南高等学校)

堀川 遥夢 (長崎県立長崎南高等学校)

山口 竜ノ介 (長崎県立長崎南高等学校)

山崎 一輝 (長崎県立長崎南高等学校)

岡田 寛子 (長崎県立長崎南高等学校 指導教員)

■8月20日(木)

【セミナー1】 時間：12：30-14：00

「CIEC 会誌『コンピュータ&エデュケーション』に採択されるために-研究と論文の質をいかに高めるか-」

会誌46号から投稿論文の種別を「研究論文」「実践論文」「研究ノート」「実践報告」としました。それぞれのカテゴリがどんなものを求めているのか、採択の成否を分けるもの、論文の内容を効果的に伝える日英アブストラクトの書き方、研究と論文の質を高める統計手法などについて「ストーリー性」をキーワードに検討します。

パネリスト

横川博一 (神戸大学)

松下慶太 (関西大学)

鳴海智之 (兵庫教育大学)

寺尾 敦 (青山学院大学)

【セミナー2】 時間：14：15-15：45

「アフターコロナ、ウィズコロナの時代に大学生協は何ができるのか」

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により今までの常識が通用しない世界になった。それは私たちの仕事や生活の場である教育機関も例外ではない。

大学では、学生たちがキャンパス内に集っていた日常が大きく変化をした。非対面が当たり前になった社会では、大学や大学生協も従来の常識に囚われていては生き残ることさえ難しいであろう。一方で、この変化を捉えることができれば大きなチャンスをつかむことができるはずだ。では、どうすればよいか？まず、アフターコロナ・ウィズコロナの社会環境の中でどのような「メガトレンド」が発生しているのかを知ること。そして、その「メガトレンド」を「大学の環境、大学生の学びや生活」に結び付けて読み解き、大学生協としてどう受け止め、変化し、進化するかを考えることが必要不可欠であろう。

本セミナーでは大ヒット作となった書籍「アフターコロナ」を緊急発刊された日経BPから登壇者をお招きしメガトレンドについて解説いただいた上で、大学や大学生協がどのように変わるべきか、変わりうるかを参加者の皆さんと議論していく。

パネリスト

中野淳 (日経BP コンシューマーメディア局長補佐)

北村士朗 (熊本大学教授システム学研究センター)

毎田伸一 (全国大学生協連 専務理事)

矢間裕大 (全国大学生協連 学生委員長・大阪大学工学研究科博士前期課程)

内赤尊記 (千葉大学生生活協同組合 専務理事)

司会：松葉哲史 (法政大学生生活協同組合)

【セミナー3】 時間：16：00-17：30

「大学生はデジタルデバイス・コンテンツを学修にどう活かしているか？」

ノートPCとスマートフォンといったデジタルデバイスを当たり前を持つ現在の大学生は、これらのデバイスや電子書籍やノートアプリといったデジタルコンテンツを、大学での学習にどのように活かしているのでしょうか。このセミナーでは、大学生のデジタルデバイスやデジタルコンテンツを使った学修方法や活用事例を報告し、最近の大学生の学び方について考えます。

パネリスト

山中章司 (三重大学3年生)

近廣勇樹 (九工大4年生)

斎藤貴浩 (弘前大学4年生)

司会：北村士朗 (熊本大学)

【CIEC 第123回研究会】

【開催概要】

テーマ：「コロナ禍における学びの継続」について

実施日時：2020年11月22日(日)14：00-16：15

会場：Zoom オンライン会議室

パネリスト：

①市立札幌旭丘高等学校 高瀬敏樹氏

②東京都立三鷹中等教育学校 能城茂雄氏

③早稲田大学高等学院 武沢護氏

司会・ファシリテータ：吉田賢史氏(CIEC 小中高部会・早稲田大学高等学院)

プログラム：

14：00-14：05 開会の挨拶

14：05-15：20 各パネリストより学校での立場や取り組みなどを具体的に紹介。

15：20-15：30 休憩

15：30-16：10 パネルディスカッション・質疑応答

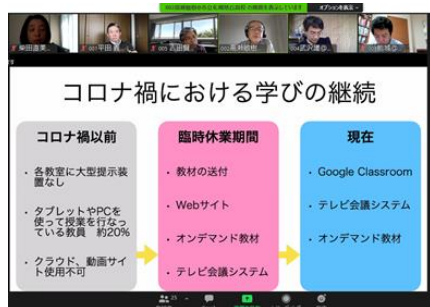
16：10-16：15 閉会の挨拶

研究会概要：

新型コロナウイルスによる感染拡大が続く中、25名の参加者のもと、Zoomを利用したオンラインにより第123回研究会が行われた。まず、小中高部会長平田義隆氏(京都女子高校)より、開催挨拶と趣旨説明があった。

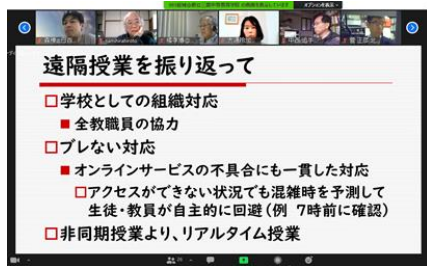
前半は、3名のパネリストにより各学校の取り組みについて紹介が行われた。

はじめに、高瀬敏樹氏より、コロナ禍以前の札幌市立学校における ICT 環境の整備状況の説明、臨時休業期間中「動画共有サイトの利用許可」「Zoom による SHR 開始」「Google Classroom のアカウント配布」が段階的に開始された様子が紹介された。動画プラットフォームとして vimeo を利用した経緯も紹介された。選定の理由として、広告が表示されない、特定のドメイン内のみ



での限定公開、動画自体にパスワード設定可能等が挙げられた。また、授業動画を作成するにあたり先生方へ伝えたこととして、手持ちの機材で、どんなスタイルでもよい、編集不要、できるだけ短く（3分～10分間）と呼びかけ、結果として、多くの動画がアップロードされたことが報告された。さらに、vimeo の分析機能を利用した月別視聴時間のグラフなども紹介された。最後に、臨時休業期間後、ICT 環境として、「全生徒、教職員へ Google Classroom のアカウントを発行」「HR、全教科、総合的な探求の時間、生徒会活動、部局活動で活用」「zoom が市教委への申請なしで利用可能」「出席停止になった生徒へのリアルタイム授業配信」など、コロナ前に比較し進展した様子の報告があったが、多くの市立高校では、普通教室での大型提示装置や無線 LAN の整備の遅れなど ICT 環境の課題も多いことも指摘された。

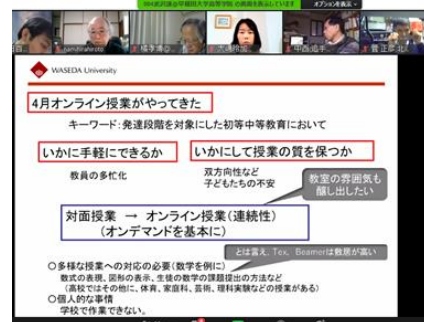
続いて、能城茂雄氏より、コロナ禍以前の 2019 年度末までの 4 年間の「ICT パイロット校の指定」についての紹介があり、生徒 1 人 1 台が整っておりさらに生徒一人あたり、LTE 7GB が整備されており、全校生徒と教員で約 7TB の通信が可能（LTE が繋がらない事例なし）であること、無線（Wi-Fi）は、プロジェクター



との接続のみとの環境であったことが紹介された。4 月の臨時休校の期間に関しては、主に新入生への対応が紹介された。Classi の ID 郵送、Zoom 利用に向けて校内研修、Zoom・Skype による HR の早い段階での実施、さらには、5 月 11 日より、Zoom 利用による通常時間割でのリアルタイム遠隔授業を実施（生徒は制服で参加、体育は体操着着用）など紹介された。この間大切にしていたことは、生徒とのつながり、登校できない状況でも生徒と顔の見える関係を継続していたことで、それを支えていたのは、「学校としての組織対応（全教職員の協力）」「フレない対応（オンラインサービスの不具合にも一貫した対応・アクセスができない状況でも混雑時を予測して生徒・教員が自主的に回避）」「家庭の協力（環境のない生徒には対応の予定であったが必要なかった）」であったことが示された。

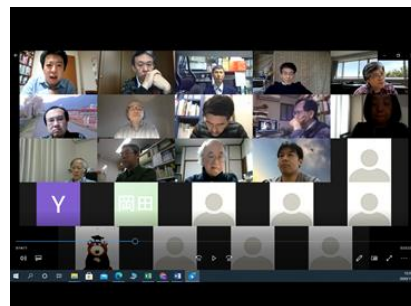
最後に、武沢護氏より、高等学校と大学学部、大学院の

授業の観点からの発表があった。発達段階にある初等中等教育においては、多忙な教員が、いかに手軽に授業を作成できるか、また、不安の中にいる生徒たちに対して、いかにして授業の質を保つかについて工夫した点が紹介された。高校生は大学生と違い、集中力がないので、15 分のコンテンツを見せるのが大変であったが、毎日課題を出すなど工夫によっては大学生に比べて、オンライン授業への親和性がある。また、すばやく課題ができる生徒と何度もビデオを見る生徒どちらの生徒にとっても一定の効果があったことが紹介された。オンライン授業が一段落した現在、蓄積したコンテンツをモジュール化すること、オンライン授業でいかにインタラクティブにするかを整理し直しているところであり、オンライン授業の中での気づき（従来の学校の考え方が崩れていく、教員はいらないのか？



様々な特性を持った子供たちにどう対応するのか、教職課程こそいろいろ考えた仕掛けを提案する必要があるなど）をいかに今後につなげていくかという視点から「Open Education と Open Educational Resources」「授業方法の多様化の可能性」「教員養成課程の見直し」といった今後の課題が示された。

後半では、3 人の方の発表をもとに、質疑応答や意見交換が行われた。オンライン授業における生徒の環境による問題点はなかったか、動画コンテンツを使用するときの著作権について、コロナ禍で教育がどのように変化したか、対面授業になり、ICT 化促進を元に戻そうという動きはないか、などについて意見が交わされた。最後に、「今後コロナが終わった後どのように ICT を利用していくのか？」という問いに対し、ICT の良さ・対面の良さを多くの教員が実感した今だからこそ変えていけることがあるという意見と共に、20 年後 30 年後の教育の質が大きく変化していく中での教員のありようについて考えさせられる発言もあった。2 月まで誰も想像していなかった事態に直面し、突然のオンライン授業導入となりすべての条件を完全に整えることができない中でも、何とか臨時休校を乗り越えてきた経験に基づく貴重な意見交換となった。



文責：柴田直美(CIEC 小中高部会・日本女子大学附属高等学校)